

日本防災士会滋賀県支部設立 10 周年記念事業報告

本会では、地域、職場での防災リーダーとしての役割を果たすため、日頃から会員相互の交流と親睦を図り、一人ひとりのスキルアップと地域防災力の向上をめざしている。

一方、県内 4 自治体（湖南市・甲賀市・栗東市・大津市）では、防災士養成に積極的に取り組んでおられることもあり、新たに約 1,600 名の防災士が県内に誕生している。

各地域において防災士の役割がますます重要になる中、本会は設立から10年目の節目の年を迎え、地域防災力の向上と災害時における支援活動に取り組む防災士や市民等への支援を通じて、安全で安心な社会の実現に寄与する目的に「10周年記念事業」を実施する。

記念講演会 「～減災は、一人ひとりの努力から～」

日 時：平成 29 年 2 月 19 日（日）

14：00～17：00

場 所：滋賀県危機管理センター

1 階 大会議室

参加者：160 名

（内、滋賀県防災士会会員 30）



後 援：滋賀県 NHK大津放送局 大津市 大津市消防局・団
甲賀市 湖南市 栗東市 （社福）大津市社会福祉協議会（順不同）

内 容：

14：00

開会あいさつ 日本防災士会滋賀県支部 支部長 佐々木南雄
来賓あいさつ 滋賀県防災危機管理局 危機管理室 室長 西村信雄 氏

14：15

日本防災士会滋賀県支部 10 周年の沿革
日本防災士会滋賀県支部 事務局長 川端 豊



14：30～15：45

第 1 部 防災講演 動け！防災士 ～地域を守るのはあなたです～
特定非営利活動法人 兵庫県防災士会理事・事務局・事業部長 横山恭子 氏

内 容

防災士としての活動

災害は自然災害だけではなく、大勢の方に振りかかるものであることから感染症や犯罪、事故も災害の一部であり、防災士としての活動を地震や水害に限定せず活動してほしい。

よって、これまでの経験の中からできること、得意なことを中心に活動するもよし、分かる分野からはじめるもよしなので、臆することなく活動してほしい。



防災訓練について

これまで、災害が起こってからの訓練（初期消火、応急・急講習等）が多く、消防や日赤の方をお願いして行っていることも多い。防災士には、災害を防ぐための訓練をしたり、地域の関係者をつなげる役割もある。

活動のヒント

訓練のための訓練ではなく、楽しみながら訓練

訓練を目的にせず、地域のイベントに訓練を取入れる ⇒ どんど焼き＝火を使う＋初期消火訓練

女性や子ども目線

訓練には男性の参加が多く、女性は入りづらく行きにくいので、「おいしい」などのキーワードを

おいしい＝簡単クッキング＋非常食

井戸端会議を意識した、しゃべりながら普段の雰囲気をつくり興味につなげる女性だけの訓練

話のながれストーリー作ることにより子どもに興味を持ってもらう



防災士として

地域の様々な団体が、お互いの活動を分かっていないのが現状、また防災士の認知度も低い

お互いの活動を整理し強み弱みを知り足りないところは補い合うことが大事であり、時には情報をもらうことも必要

お互いのことが分かればいがみあいがなくなり、何か一緒にできれば事例ができ、今後の活動がしやすくなる（地域に認めてもらえる）

地域における取組みと工夫

取組み

- ・身近に感じられる目的達成可能なわかりやすい目標
- ・対象者に合った集客しやすい企画名
- ・ステップアップできる継続可能な内容
- ・家に持ち帰って即実践できる課題の提示

【キーワード】

防災・減災⇒楽しみ + 防災・減災

工夫

- ・目的や達成感を明確にし、自分ごととして参加してもらう
- ・回覧板や掲示板の工夫
- ・参加の呼びかけに子どもたちの協力を得る
- ・訓練や研修会のあとに必ずアンケートをとる
- ・実施結果などを回覧板などで公開

【キーワード】

活性化のカギは企画力と表現力

16:00～17:00

第2部 フォーラム ～滋賀県支部各ブロックからの報告～

☆報告者	湖東ブロック	安井 務
	大津ブロック	渡邊 光悦
	滋賀県西部地区郵便局長会	本田 昭彦





☆コメンテーター 大津市危機・防災対策課 眞鍋 智行 氏
 兵庫県防災士会理事・事務局 兼 事業部長
 横山 恭子 氏
 ☆コーディネーター 事務局 山口 浩次

コメンテーターコメント

地域に密着した活動を展開しており、DIGやHUG訓練を積極的に行うなど防災士活動の幅を感じた

地域コミュニティの活性化につながる

参加者のみなさんも、まずは始める、はじめの一步を踏み出してみよう

その後、周りの方を巻き込み、自分自身が楽しみながら一緒に活動しよう

防災士の活動を聞いて、今までと少し違う新しい気持ちになっていただいたのではないかと

所 感

- ・各市町において防災士が養成され、多くの防災士が誕生しており、地域における防災士としての役割がますます重要になっている中、このような講演会が開催できてよかった。
- ・防災士には、幅広い知識が必要であるが、その知識を一方向的に話すのではなく、相手にとって楽しく興味を示してもらえるやり方が重要で、視点の切り替え発想の転換が必要である。
- ・防災士同士の交流とスキルアップは、今回の参加者の数を見ても重要なことであると感じたので、滋賀県防災士会への会員募集を積極的に進めるとともに、研修会や交流会の企画を進めていきたい。

視察研修 ～琵琶湖治水等を巡る視察研修会～



天ヶ瀬ダム

日 時 平成29年3月17日（金） 10時～15時30分

場 所 大津市黒津4丁目5-1と宇治市槇島町六石山

①瀬田川洗堰、同バイパス水路、瀬田川洗堰管理棟、旧南郷洗堰、アクア琵琶

②天ヶ瀬ダム、天ヶ瀬ダム再開発事業トンネル式放流設備建設中現場

参加者 13名

内 容 **午前** アクア琵琶施設（淀川水系関連啓発展示等館）において

△木瀬氏 1階 足踏床版地図（淀川水系地図）に基づき治水計画等の概要説明

△今中氏 2階 放映室で、映像を交え淀川水系の治水歴史等の概要説明

瀬田川洗堰、バイパス水路、瀬田川洗堰管理棟操作室、旧南郷洗堰の現地において

△木瀬氏ほか1名上記の施設等の歴史や日頃の維持管理について説明



瀬田川洗堰



床版地図で説明



放映室で説明

(主な質問)

質問1 「平成25年台風18号の降雨の際、洗堰を閉めたのは、1日間か」

回答1 「11時間」

質問2 「後、1日雨が降り続いた場合、どうなっていたか」

回答2 「事前に琵琶湖水位は、30cm下げており、また、琵琶湖の計画高水位まで余裕があったことから、琵琶湖の水位の上昇に対応できたと思われる。」

午後 天ヶ瀬ダム及び天ヶ瀬ダム再開発事業（トンネル放流設備）

△橋本氏ほか2名 建設会社担当各氏（2名）

天ヶ瀬ダム再開発事業の目的

治水（洪水調節機能の強化）計画の概要や事業効果

（最大放流能力 $900\text{m}^3/\text{s}$ ） → （最大放流能力 $1,500\text{m}^3/\text{s}$ ）

天ヶ瀬ダム（昭和39年築造）：施設の規模や日頃の管理や緊急時のダムゲートの運用等の説明

トンネル放流設備工事現場において

△建設会社担当各氏（2名）

工事の進捗状況や工事概要の説明及び流入部、減勢池部を見学

特徴 ①水路トンネルとして日本最大級のトンネル

②トンネル内減勢方式を採用

トンネル放流設備工事概要（天ヶ瀬ダムに隣接設置） 平成33年度完成予定

全延長617.0m					
工事部	流入部	導流部	ゲート室部	減勢池部	吐口部
延長	28.0m	339.0m	46.0m	170.0m	34.0m
高・径・深	径28m×深50m	径10.3m	径24m×深50m	幅23m×高26m	

流入部仮設立坑口



減勢池部仮設抗道



「参加した高田伸子さんの感想」

瀬田川洗堰関係施設では、初めての経験であり、堰等の大きさに迫力を感じました。

洗堰の管理では、年間の季節に合わせ、最新の情報だけでなく永年の経験と勘により、ゲートの開閉操作をしているとの説明がありました。

非常時は、ゲートを1cm間隔で微調節をしながら、被害を最小限に食い止められるように操作していると聞き感動しました。

天ヶ瀬ダムの再開発事業として実施しているトンネル放流設備工事は、仮設工事段階とは言え、見学した流入部、減勢池部とも施設の大きさに圧倒されました。

この開発事業の実施により、治水・利水の両面の機能が拡大されることは、大変素晴らしいことと思います。

安心・安全な街づくりは、防災士や消防士の関係者だけでなく、この工事現場の方々の活躍を始め、

目に見えないところで、色々な人々が支えておられます。

私達は、地域の安心安全な街づくりに、更に尽力しなければならないと思いました。

「見学会を終えて」

今回の見学会は、淀川水系の上流部分にあたる施設を視察しましたが、大阪湾までの下流部分は、皆さんからご要望があれば、今後、企画も………？

日本の河川は、「地形が急流」で、これに加え「降雨量が多い」ことから、ひとたび大雨になると谷を駆け下った水が、平野部で暴れて、繰り返し洪水被害が発生しています。

これらの自然現象は、これまで近江盆地でも、また、大阪平野でも発生してきました。

淀川水系の河川もこれと同様の状態にあることから国は、琵琶湖から大阪湾に至るまでの治水計画や整備計画を立て、工事实施し、とりわけ洪水時、下流淀川に危険が迫った場合は、琵琶湖の地形を活かして、放流を遮断し危険を回避しています、また、堰やダム機能を駆使し、水害防止の操作管理を行っています。

今回、見学会で視察した再開発事業では、平成33年に完成すれば、それ以降瀬田川～宇治川間の放流量が $900\text{ m}^3/\text{s}$ から $1,500\text{ m}^3/\text{s}$ に増え、琵琶湖周辺の洪水被害軽減が図られることになっています。

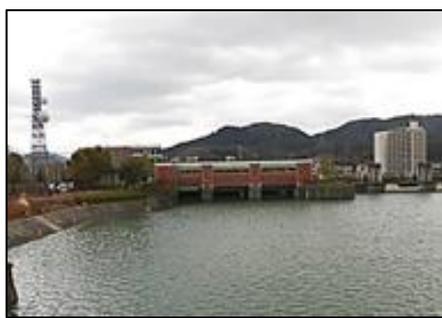
明治29年に発生した未曾有の琵琶湖大洪水は、琵琶湖から流れ出る水量が桁違いに少ないため、「湖面水位が上昇」し、同時に、琵琶湖へ流入する河川の流れがせき止められ「河川側の水位が上昇」し、「琵琶湖と流入河川」の両方から甚大な浸水被害をもたらしたのです。

この甚大な災害を教訓に、現代に生きる私達は、「淀川水系の急流地形」や「洪水時の管理メカニズム」を知っておくことが、とつても大事なことであり、「いざと言う時」の避難行動に役立つのではないかと考えています。

また、現在、国は、明治29年に発生した未曾有の琵琶湖大洪水時（+3.76m）の流入量をもとに、現在の淀川水系の整備状況等を勘案して計算した結果「琵琶湖の水位は、2.5mまで上昇する」として公表しています。（パンフレットを参照してください。）



アクア琵琶会館前の碑



上流から洗堰を望む



滋賀県支部旗を掲げ
記念撮影する参加会員

